

農政の動き 2015年5月25日～28日

◇6～8月の降水量 全国で平年並みか多く◇

気象庁は、6～8月の3カ月予報を発表した。降水量は全国で平年並みか多い。〈6月〉東日本太平洋側と西日本、さらに期間の後半は東日本日本海側で、平年に比べ曇りや雨が少ない。気温は東・西日本で平年並みか高い〈7月〉東・西日本では平年に比べ曇りや雨が多い〈8月〉北日本と東・西日本日本海側は平年に比べ晴れが少ない。(2015年5月25日)

◇切り花類の作付面積 2%減の1万5110㍓◇

農林水産省は、2014年産花きの作付(収穫)面積と出荷量を公表した。切り花類は、作付面積が前年比2%減の1万5110㍓で、出荷量は3%減の39億5300万本だった。鉢物類の収穫面積は2%減の1764㍓、出荷量は4%減の2億3430万鉢となった。(26日)

◇日本を「豚コレラ清浄国」に認定 OIE総会◇

農林水産省は、フランス・パリで開催中の国際獣疫事務局(OIE)総会で、日本が「豚コレラ清浄国」に認定されたと発表した。「諸外国との検疫協議が促進され、輸出可能となることが期待される」とする。日本は2007年4月に清浄化を達成していた。OIEが認定を始めたのは15年からで、日本は14年9月に認定申請した。(27日)

◇日本発の国際的な食品管理の認証を構築へ◇

日本発の食品安全管理の規格・認証の構築に向けて議論してきた農林水産省の「食品安全マネジメント等推進に向けた準備委員会」が、中間取りまとめを公表した。グローバルGAP(農業生産工程管理)などと並ぶ国際的な認証を目指す。中小食品関係事業者による食品安全・信頼確保の取り組みを支援し、和食や日本産農産物の世界への展開・普及を図る。HACCP(危害分析・重要管理点)と整合したわかりやすい仕組みを目指し、今後、運営主体を立ち上げて認証体制を整備する。(27日)

◇農水省が「知的財産戦略2020」を公表◇

農林水産省は、農林水産業や食品産業のグローバル化を踏まえ、海外の模倣品対応や、知的財産の効果的活用などの施策を推進する「農林水産省知的財産戦略2020」を公表した。現地邦人ネットワークを活用して模倣品を監視する。日本食材の活用促進、食文化の海外展開、農林水産物・食品の輸出推進などを盛り込んだ。戦略は2019年までを実施期間とし、5年ごとに見直す。(28日)

◇JA全青協の天笠新会長 要請活動徹底を強調◇

JA全青協(全国農協青年組織協議会)は、新役員の就任会見を開き、天笠淳家新会長(群馬県、水稻など)は、食農活動の強化や農政に青年農業者の意志を反映させる要請活動などを徹底する方針を強調。「現場の意見をくみ入れて活動する」と述べた。(28日)